

みんなで作る園の未来!

# 保育ナビ

7  
2023  
JULY  
<4/12>

特集  
保育研究の最前線  
保育実践を  
科学する

3・4・5歳児  
遊びが育つ保育  
戸外での  
クラス活動と遊び  
リレー

“質”を高める危機管理  
保育の中の  
リスクアセスメント

事例から学ぶ  
園児減少時代の働き方改革  
ICT活用による  
効率化の先に  
あるものとは

巻頭

フリーベルのごとば 汐見稔幸 小西貴士

スペシャル対談

明日の保育を楽しくするための  
保育のファシリテーション活用法 …… 4

鈴木健史(東京立正短期大学准教授)  
矢藤誠慈郎(和洋女子大学教授)

特集

保育研究の最前線  
保育実践を科学する …… 10

砂上史子

園のかたち2023 …… 20  
みそらこども園(大分県日田市)

はじめての、ICT活用術 …… 24  
秋田喜代美

3・4・5歳児  
遊びが育つ保育 …… 26  
保育者が提案する  
クラス活動と遊び Part II  
河邊貴子

0・1・2歳児の  
保育のきほん …… 30  
保育者の育ち編  
井桁容子

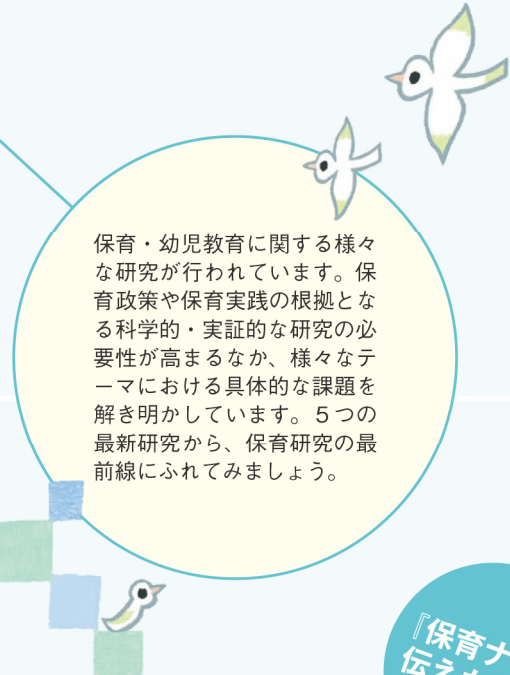
子どもへのGIFT  
恩物の世界 …… 32  
和久洋三

国の動き

主 国の動きを読む!  
研究者の目2023 …… 34  
矢藤誠慈郎

主

地域別 持続可能な  
園になるために2023 …… 36  
福岡県北九州市、愛知県蒲郡市



保育・幼児教育に関する様々な研究が行われています。保育政策や保育実践の根拠となる科学的・実証的な研究の必要性が高まるなか、様々なテーマにおける具体的な課題を解き明かしています。5つの最新研究から、保育研究の最前線にふれてみましょう。

『保育ナビ』が伝えたいこと

保育の難題に取り組むために  
様々なアプローチで選択肢を広げる

保育の難題も、選択肢を広げることで解決に向かうことがあります。例えば、今月の特集では保育実践に対する科学的アプローチを取り上げています。そのほかの連載でも、こども家庭庁が進める働き方改革へのアプローチ、「片付け」で保育を改善するアプローチ、ドキュメンテーションから人材育成につなげるアプローチ等を取り上げています。ご参考になれば幸いです。 — 『保育ナビ』編集部

## 『保育ナビ』の使い方

読む



まずは、自分で読みます。回覧したりして、園内でも各自で読みます。

話す



読んだ記事をもとに、園内で「雑談」したり「研修」をしたりしてみましょう。

保育の質の  
向上へ



読み、話すことで、園内で学び合い・語り合いが生まれ、保育の質が高まります。

マークのついているコーナーでは、園内で話し合うためのお題・ワークを用意しています。職員会議や園内研修などでご活用ください。

マークのついているコーナーは毎月、「保育ナビ倶楽部」メールマガジン（年間購読特典）にて動画のご案内を配信します。ぜひ、ご登録ください！



【今月のおすすめ】

園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園長 主任 学年リーダー

### 園経営

コンサルタントが読み解く  
新時代の園経営2023 ……42

桑戸真二 堀江健

質を高める危機管理 ……44  
生活も保育も質を向上させよう

脇貴志

### 人材育成

園のリーダーのための  
レスパクト型マネジメント  
子どもを真ん中に  
園づくり・まちづくり ……46

大豆生田啓友 富田知敬

### 事例から学ぶ

園児減少時代の働き方改革 ……50  
菊地加奈子

人材育成  
わいわい語り場Ⅱ ……54

岩田恵子

少子化が深刻化するなか、園にはどのような役割が求められているのでしょうか。「レスパクト型マネジメント」の視点で、園が地域の中心となったまちづくりを考えます。

### 保育内容

保育を深める  
編集委員のおすすめ書籍 ……58  
大澤力

主  
保育が変わる！  
保育環境の片付け ……60

川辺尚子

information・  
『保育ナビ』読者からの声 ……62

みんなの保護者対応！ ……65

始めよう  
子どもの姿ベースの指導計画 ……66

大豆生田啓友 高嶋景子

### 巻末

子どもと保育を思う日々から  
無藤隆

7月号、8月号は「ドキュメンテーションの視点から人材育成を考える」が共通テーマ。3名の主任先生のお話から、園の保育全体に波及する様々なメリットが見えてきました。

# 明日の保育を楽しくするための 保育のファシリテーション活用法

「保育ナビ」  
スペシャル  
対談

Special Talk

保育の質を向上させるために園内研修を実践しているのに、なかなか成果が上がらない……という悩みは多いものです。大切なのは保育者の主体的な学びの姿勢が生まれる信頼関係の構築です。一人ひとりが自分の思いを伝え、自分と異なる意見を聞く“対話”によって保育者のマインドや姿勢を変えていく、今話題のファシリテーションについて鈴木先生と矢藤先生が語りました。

(対談は2023年3月に実施)

様々な業界において活躍されている方々をお招きし、じっくりとお話をうかがいます。保育を捉え直そうとする際のきっかけが見つかります。

写真/渡辺 悟



聞き手

## 矢藤 誠 彦 郎

(やとう せいじろう)

和洋女子大学教授。養成から現職を見通した保育者の専門性の開発、保育における組織マネジメント・リーダーシップ等を専門に研究を続ける。全国保育士養成協議会常務理事。日本保育者養成教育学会理事。著書に『保育の質を高めるチームづくり一園と保育者の成長を支える』（わかば社）、『幼児教育・保育制度改革の展望—教育制度研究の立場から』（共著、教育開発研究所）等。

ゲスト

## 鈴木 健 史

(すずき けんじ)

東京立正短期大学准教授。児童養護施設職員、幼稚園教諭、保育士を経て、保育研究の道に。保育ファシリテーション実践研究会主宰。専門は保育者論、子育て支援、保育現場のマネジメントやリーダーシップ、コミュニケーションなど。著書に『保育者のためのキャリア形成マネジメントブック』（共著、みらい）、『保育リーダーのための職員が育つチームづくり』（編著、中央法規出版）等。

保育研究の最前線

# 保育実践を 科学する

保育・幼児教育に関する様々な研究が行われています。保育政策や保育実践の根拠となる科学的・実証的な研究の必要性が高まるなか、研究者と行政、保育現場が密にかかわりながら研究が進められ、様々なテーマにおける具体的な課題を解き明かしています。5つの最新研究から、保育研究の最前線にふれてみましょう。

監修／砂上史子（千葉大学）

## CONTENTS

### 巻頭言

政策と実践を支え、保育・幼児教育の豊かさと奥深さを解き明かす研究の営み …P.11  
砂上史子（千葉大学）

保育の質と子どもの育ちとの関連に迫る …P.12  
研究1 砂上史子

### 座談会

研究を实践にどう活かすか …P.14

砂上史子、田中悦子（千葉市立新宿保育所）、  
奥田征規（千葉市立真砂第二保育所）、  
中道圭人（千葉大学）、岩田美保（千葉大学）

保育者の専門性を明らかにする …P.16

研究2 高橋佳代（江東区立ちどろり幼稚園）  
研究3 奥谷佳子（山梨県立大学）

園での子どもの経験を描き出す …P.18

研究4 小野友紀（大妻女子大学短期大学部）  
研究5 境愛一郎（共立女子大学）

# INDEX

カテゴリ別で保育をさらに深めます

## 国の動き

34

国の動きを読む！ 研究者の目 2023  
〈こども家庭庁編〉

こども家庭庁における働き方改革の  
基本方針及び目標について

36

地域別  
持続可能な園になるために 2023

保育現場と養成校が協働する  
実習指導を通して人材育成を

## 園経営

42

コンサルタントが読み解く  
新時代の園経営 2023

限度を超えたクレームへの対応  
～職員が安心して働く場所をつくるために～

44

“質”を高める危機管理  
～生活も保育も質を向上させよう

【アセスメント】  
保育中のリスクアセスメント

## 人材育成

46

園のリーダーのためのリスペクト型マネジメント  
子どもを真ん中に 園づくり・まちづくり

すべての子どもへの  
切れ目のない支援にチャレンジ

50

事例から学ぶ  
園児減少時代の働き方改革

ICT活用による  
効率化の先にあるものとは

54

人材育成  
わいわい語り場Ⅱ

記録に写真を使うことで生まれる、  
保育者の学びと関係性の変化

## 保育内容

58

保育を深める  
編集委員のおすすめ書籍

『日本人の真価』

60

保育が変わる！  
保育環境の片付け

保育室の収納

62

information

『保育ナビ』編集部からのお知らせ、  
『保育ナビ』読者からの声

65

みんなの保護者対応！

保育のおもしろさにはまったBさん

66

始めよう  
子どもの姿ベースの指導計画

子どもの興味・関心を丁寧に捉え、  
共に支える園の体制づくり

保育・幼児教育の質の維持向上に向けて、日本全国の自治体ではどのような取り組みが行われているのでしょうか。魅力的な取り組みを始めている地域を紹介します。



## 保育現場と養成校が協働する 実習指導を通して人材育成を

監修・企画

増田まゆみ

(湘南ケアアンドエデュケーション研究所)

企画

石井章仁 (大妻女子大学)

尾崎司 (東京家政大学短期大学部)

小櫃智子 (東京家政大学)

那須信樹 (中村学園大学)

(50音順)

保育士資格取得に必修である実習は、保育士養成において学びの「核」として位置づけられています。少子化はますます厳しい状況になり、2022年は出生数が80万人を切りました。これまで以上に、就学前の保育・教育の質の高さ、また、保育者の人間性や専門性等が問われます。北九州市と蒲郡市の地域とつながり、保育現場と保育者養成校が協働する実習指導への意欲的な取り組みを、人材育成に関連づけて学び合ひましょう。

国の動き

増田…まず、実習生の受入れ・指導に対する基本的な考え・思いについてお話しください。  
瀬戸口…北九州市福祉事業団(以下、事業団)には現在15か所の保育所があり、職員の異動があります。そのため、だれがどの園の実習指導担当者(主任)になってもスムーズな受け入れができるよう、2017年に「実習生受け入れマニュアル作成委員会」を結成、「実習生受け入れマニュアル」を作成しました。

お話



瀬戸口晃子 先生  
(園長)



河野礼子 先生  
(主任・実習指導担当)



萩原ひかり 先生  
(スマイルサポーター)

DATA

北九州市

・人口：92万人(2023年3月)  
・認可保育所数：132(2022年)

事例1  
福岡県北九州市  
社会福祉法人北九州市福祉事業団  
折尾丸山保育所

個人的には、2015年の増田まゆみ先生の実習指導研修会への参加が転機となりました。当時は、実習指導担当者として実習生を受け入れ、実習指導することを「追加業務」と受け止めてしまいがちでした。しかし、研修を受け、実習生を受け入れることで現場の職員にも得るものがあり、職場の学びになると、また、実習の段階から育成を見据え、同僚性をもって受け入れることの大切さなど、大きく意識が変わりました。  
増田…保育現場と養成校との協働という視点から実習指導にかかわる取り組みの内容やその背景経緯についてお聞かせください。  
瀬戸口…2022年度、事業団では中堅保育士(5~10年目の職員対象)が新規採用保育士や実習生に寄り添い、共に育っていくことを目指して、「チームワーク向上研修会」を実施し、

個人的には、2015年の増田まゆみ先生の実習指導研修会への参加が転機となりました。当時は、実習指導担当者として実習生を受け入れ、実習指導することを「追加業務」と受け止めてしまいがちでした。しかし、研修を受け、実習生を受け入れることで現場の職員にも得るものがあり、職場の学びになると、また、実習の段階から育成を見据え、同僚性をもって受け入れることの大切さなど、大きく意識が変わりました。

参加者を「スマイルサポーター」(以下、SS)と命名しました。

当所ではSSの任命式を全職員の前で行いました。それまで、実習生に関しては実習担当者である主任、所長等で話し合い、進めることが多かったのですが、SSが実習生に声をかける姿を見て、実習生に積極的にかかわる姿がなかった1〜3年目の若手職員に、進んで声をかけ説明をする姿が見られるようになり、他職員の育成にもつながっていることを実感しました。



河野…例えば、給食室前で実習生がアレルギー対応食に関心をもった様子を捉え、萩原(SS)が実習生にアレルギーのある子どもへの対応の説明をしました。その様子を見て同じクラスの3年目の職員が、「今から給食を取りに行くのですが、実習生も行き、除去食の受け取り確認の様子を見るようにしますか」とSSに尋ねたのです。

萩原…経験年数的にも、私自身が「育成される」側という意識だったのですが、「育成をする側」に立ってみることで意識が変わり、実習生にも積極的にかかわれるようになった自分を感じています。「チームワーク向上研修会」以外にも、毎年、事業団や北九州市保育士会主催で実習指導担当者研修が行われ、一方的に伝える指導から、学生や職員が共に学び合う実習にシフトできたと思います。

増田…実習指導を、人材育成・保育の質や、保育士の専門性の向上、さらに、保育士不足解消等につなげる取り組みについてお聞かせください。

瀬戸口…若手職員の職場への定着とミドルリーダーの育成が大きな課題です。どの職員も、子どもの姿を通して実習生と語り合うことで、子どものかわいらしさや魅力を知ることができ、自分自身の保育を振り返る機会となっています。

### 実習生の園内研修への参加

瀬戸口…まず、子ども理解のために保育ドキュメンテーションを園内研修に取り入れ、「心が動いた」と感じたシーンを写真に収め、持ち寄って職員間で対話をしながら進めました。コロナ禍で休憩中も話ができず、日々の業務に追われがちな職員にとっ

て、「対話」こそが大切だと感じました。そこでは、「子どもってかわいい」と心から発する言葉が特に多く出ていました。そして、この「職員が笑顔で子どものことを語り合う場」に、実習生も入ってはどうかということになりました。実習生が環境設定や子どもへのかかわり方、言葉のかけ方に着目し、その中で保育士が意図していることに気付く姿にうれしさを感じ、改めて自らの言動一つひとつの意味を考えるきっかけとなりました。

園内研修とは別に、実習後半には、実習生が園のカメラで心動かされたシーンを撮影し、午睡時間中にドキュメンテーション作りをしています。それを基に若手の職員数人と実習生とで子どもの姿を通しての語り合いも始まりました。

### 『ヤリ・ホット』の共有

瀬戸口…また、那須信樹先生の



研修で学んだ萩原の提案で、昼の「10分会議」時に子どもものこととせず、「ニヤリ」としたり、「ホッ」としたりした姿を共有することにしました。

実習生が2人以上いる場合、全員出席してカンファレンスを行います。クラスの担任からだけでなく、多くの保育士の話を聞くことができるからです。

ただ、これまでは、「今日AちゃんとBちゃんがけんかをしていた（中略）どう対応したら……」という話になりがちでした。そこで、カンファレンスの冒頭に『ニヤリ・ホッ』を取り入れることを確認し、実習生も参加することにしました。子どもの姿から「ニヤリ」、「ホッ」としたこと、「心が動かされたこと」を話すことで、「子どものかわいらしさ」に注目するように変化しました。これまで「ヒヤリ・ハット報告」ばかりであった

のが、様々なクラスの心動かされた子どもの姿やエピソードを園全体で共有できるようになり、温かい気持ちになっています。

### 実習記録（日誌等）の書式について

河野：実習生が疑問に思ったこと、対応に戸惑ったことに関する記録が多くあります。実践を振り返り、次はどのように対応するかまでの記録につなげるためには、指導者側が、実習生自身が気付き、自分で考えるような問いかけ、投げかけをする力が必要だと感じています。

実習生は初めての場所での経験で、1日の流れを把握することに必死にならざるを得ないと思います。記録の書式として、全日程を時系列で記入する日誌ばかりではなく、子どもの心にクローズアップしたエピソード型や、1シーンに注目して記録で

きる書式も活用し始めています。

### 実習記録を通じた子ども理解の深化をめざす、実習指導と指導者の力量形成を

増田：今後の実習への期待・課題についてお聞かせください。

瀬戸口：学生は学校で最新の知識を身に付けて現場に来ます。今年度、ドキュメンテーション方式での実習記録にしたいという実習生に、現場は大きな刺激を受けました。時代とともに変化する養成校の実習内容にこえられる現場でありたいと考えています。実習を通して保育の魅力を感じ、保育士の仕事のやりがいを見出すきっかけになればと願っています。

課題として、養成校とのより気軽な連携の必要性を感じています。養成校の先生方とは日頃から「共に未来の保育者を育成する立場」として、つまり、実



習生を「受け入れる側」「お願いする側」ではなく、「育て合う立場」としてもっと気軽に対話ができる関係づくりができればと思います。

また、実習指導担当者について、今年度は主たる担当者である主任とSSと一緒に実習指導や育成について話し合う機会が増えました。次年度は、園全体で実習生と同僚性をもち、共に学び合う職員体制をつくるために、テーマの1つとして園内研修に取り組み予定です。

## 事例2 愛知県蒲郡市

お話



髙田弘子 先生  
(名古屋短期大学)



金沢君恵 先生  
(蒲郡市子育て支援課 主幹)\*1



小笠原麻里子 先生  
(蒲郡市立府相保育園 副園長)\*2

DATA 愛知県蒲郡市

- ・人口：7.8万人（2023年3月）
- ・認可保育所数：16園  
(公立15、私立1)（2022年）



増田：実習生の指導について、基本的なお考えをお話してください。

### 安心して、楽しい実習体験に

金沢：実習の体験が楽しい、良かったなと思えることがいけば、良かったと思えるところが認め、伝えることが大事だと思います。また、いろいろな保育士が声をかけ、実習生が安心できるようにすることも大事です。保育士として求めるのではなく、保育士を目指す学びの途上にある

実習生として受け入れ、「大丈夫」「保育って楽しい」ということを伝えるのです。

### それまでの実習指導を見直す

増田：そのような考えに至った経緯を教えてください。  
髙田：現場で副園長をやっていた時に、実習生の指導ってこれでいいのかなという思いを常にもっていました。実習指導が学生にとって有意義なものになれば、保育士として、同じ仲間として働いてもらえるのではない

か。そのためには、現場の保育士がきちんと指導ができていないか見直す必要があるのではと考えました。実習生の受け入れは、自分の保育のスキルの向上や、保育観、保育士としてのやりがいや再確認できる機会でもあり、実習という機会を互いにとって良いものにするために、現場の保育士がみんな話し合い、考える場をつくりたかったのです。

増田：それで実習マニュアル作成に取り組むことになったのですね。

### 私たちの実習マニュアル作り

髙田：2013年に市役所の指導担当をしていた時に、市の副園長会で実習のマニュアル作りが始まりました。トップダウンではなく、自分たちのものにするためには自分たちで作らなくてはいけないと思い、当時市の

公立16園、私立2園の18人と私立で各養成校の手引きや募集要項などを見ながら考えました。実習の実施基準やミニマムスタンダード<sup>\*3</sup>を見ながら自分たちで1から勉強し直して作った経緯があります。作成にあたり、養成校の先生にお願いし、一緒に話し合う機会ももちました。

### 子どもの最善の利益を重視して

増田：マニュアルの基本的な考え方と内容をお話してください。  
髙田：保育士として保育所で働く上で何を大事にしなくてはいい



\*1・2：所属は取材当時のものです。

\*3：2007年、全国保育士養成協議会編で刊行。その後、2018年「保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2」刊行



けないか。「子どもの最善の利益」という言葉にこだわってマニュアルに盛り込みました。毎年実習生を受け入れる時に、必ず全職員で読み合っています。金沢：否定的な捉え方ではなく、肯定的に捉えることを基本に、指導について話し合いました。

### 園全体で同僚性ある受け入れを

髙田：「実習Ⅱ」では、子育て支援や職員会議等のノンコンタクトタイムの保育士の役割を知ってほしいと思いました。マニュアルに記載しておくことで、園全体で意識し、実習生がその必

要性を理解するきっかけにもなるようにしました。

金沢：実習生に職員会議に参加してもらうのは、園全体で受け入れていることを実感することが目的です。実習生は、「こんなことを話し合ってますね」「こういうふうを考えているんですね」と、園の保育や考えに気付いていきました。

### 養成校と共に取り組む実習研究に

増田：養成校と協働する取り組みについてはどうでしょうか。髙田：副園長会で、マニュアルを運用して実習生を受け入れた時にどんな課題が出てきたか、担任、副園長と一緒に研修し、そこに養成校の先生も参加してもらい講習を依頼しました。また、市の人材育成を目的とした研修で、1年間実習をテーマに研究に取り組んだグループが

ありました。養成校での事前事後指導においてどのような授業をしているのか、実態を知る機会があると実習指導に活かせると思います。

### 実習指導を人材育成に

増田：人材育成、また、保育の質の向上につながるという視点でお話してください。

髙田：実習指導の「自己評価シート」を私の研究で作成し、いくつかの園で活用してもらいました。

小笠原：そのシートを通して、実習生を受けもつ担任と副園長の私とでコミュニケーションを取る機会が多くなったことがとても良かったです。保育士の保育観、子ども理解などいろいろな話ができ、私も勉強になりました。この自己評価を通して、「実習マニュアルや保育指針を読み返した」とも言っていました。

保育士の意識がすごく変わったと思います。

増田：少子化、保育士不足等課題がある中で、持続可能な園になるために実習指導がどう活かされるでしょうか。

金沢：園の実習が良かったという経験が、蒲郡市で働きたいという思いにつながっていけばよいなと思います。

髙田：大事にしていたのは、市全体の子どものためにやれることを意識したことです。一人ひとりの保育士の意識を改革し、長いスパンで育てていく。園の人材育成と実習指導をつなげていければと思っています。



## まとめ

# 保育現場と養成校が協働する実習指導を通して人材育成を



## 「問いかけ合い、 考え合う場」を体感する

那須信樹 (中村学園大学)

紹介事例の通り、自園の組織的な保育力の向上に向けて実習生を巻き込む保育現場が増えてきています。具体的には、園内研修や日常の保育の振り返りを踏まえた翌日の保育計画を考える場などに実習生の参加を認め、保育者による「問いかけ合い、考え合う場」の実際を体感することができるという取り組みです。実習生にも「一同僚」という位置づけを与えることで、学ぶ主体としての実習生の学習意欲を引き出すなど、実習生にかかわるすべての職員の人材育成の機会にしていくなどの工夫も期待されています。



## 記録したくなる実習体験と 学び環境が重要

尾崎 司 (東京家政大学短期大学部)

2つの事例では、職員会議への参加や給食にまつわるアレルギーへの対応や給食時の除去食受け取りの経験など、職員の思いによって実習の学び環境が設定されています。また、自分が心を動かされたシーンを記録したものが、保育の話し合いに活用されれば、記録の意義づけが違ってきます。「ドキュメンテーション」は、書きたいことがあふれてくる機会への出会いにつながります。その活用を経験することによる実習が大切だと改めて感じました。



## 実習を軸に地域で魅力ある 保育を創造する

小櫃智子 (東京家政大学)

実習の充実が未来の保育者を育てるだけでなく、保育者の資質向上にもつながることを踏まえて、保育現場が主体的に実習充実のために積極的に取り組むようになりました。蒲郡市の地域全体での取り組みや、北九州市福祉事業団のような取り組みは、各園が実習を軸につながり、互いに高め合う関係性を築いていくことでしょう。そうした取り組みに地域の養成校も参画することで、双方の質が高まり、地域で魅力ある保育を創造していくことが期待されます。



## 実習を園の人材育成の 一環として捉える

石井章仁 (大妻女子大学)

2園の実践は、実習を園の人材育成の一環としている点が共通しており、「人材育成の場としての実習」という視点が明確になりました。今回、共に保育に携わる人材として同僚性をもって育成すること、対話を通して共に考えること、様々な職員が実習生に語りかけ、共通理解をもつこと、子ども理解に向けて共に語り、時に保育者がモデルとしての姿を示すこと等、実習と就業後の初期の育成をつなげるための複数の要素が明らかになったと言えます。



増田まゆみ  
(湘南ケアアンドエデュ  
ケーション研究所)

北九州市、蒲郡市における保育現場からの実習指導の語りから、2つの地域の異なる取り組みに共通する要素が明らかになりました。

1つ目は、実習指導者の実習生への「温かなまなざし」に加え、配属クラスの保育者だけでなく、多くの人が声をかける等、「実習生が安心感のなかで、子どものかかわり、保育のおもしろさ・楽しさを経験すること」を大切にしている点です。

2つ目は、実習生と指導者等との関係性が、教える・教えられる、やらせる・やらされる関係ではなく、相互に相手を尊重し、良さを認め合う協働になっていることです。指示ではなく、同僚性をもって、実習生との対話により、保育者は自らの保育への新たな気づきを得、保育の質の向上につながっています。

そして3つ目は、実習生が園内研修や職員会議へ参加することにより、保育者の多様な職務の理解や、学び続けることの大切さに気付いている点です。未来の、そして保育現場の人材育成につながる実習指導の提示です。

これまでの積み上げを活かし、多様な保育現場と養成校とが協働する取り組みとすることにより、持続可能な園となることを可能にします。

# information

## 『保育ナビ』編集部からのお知らせ

『保育ナビ』編集部では、4つのメディアでも  
保育情報を配信しています。

『保育ナビ』  
の  
情報をもっと!

『保育ナビ』の公式サイト

<https://www.hoiku-navigation.com/>



『保育ナビ』の公式 Facebook

<https://www.facebook.com/froebelkan.hoikunavi/>



『保育ナビ』YouTube チャンネル

[https://www.youtube.com/channel/UCP4zj6p\\_z7LQ-G0ecoFY1fQ](https://www.youtube.com/channel/UCP4zj6p_z7LQ-G0ecoFY1fQ)



メールマガジン「保育ナビ倶楽部」

<https://www.hoiku-navigation.com/news/naviclub2023/>



『保育ナビ』年間購読者限定のメールマガジン「保育ナビ倶楽部」(登録無料)。保育に役立つ情報をタイムリーにお届けします。

- ①園経営から保育エッセイまで、保育に役立つ情報を配信
- ②『保育ナビ』と連動した解説動画のお届け
- ③『保育ナビ』最新記事情報
- ④保育オンラインセミナー・商品情報

# 保育ナビ

## 保育ナビブック

### 園内研修と会議が劇的に変わる 保育ファシリテーション

6月中旬刊行

職員が立場に関係なく率直に意見を言い合える対話の場づくりとは!? 保育現場におけるファシリテーションの基本的な考え方や、話し合いをスムーズに進めるための様々な手法について解説します。日々の連絡会議や職員研修、保護者会等、具体的なシーンごとの例も紹介しています。保育の質の確保・向上のために、園内研修や会議を見直しませんか。

#### Contents

- Part1 保育ファシリテーションを始めよう
- Part2 話し合いのための手法
- Part3 やってみよう! シーンごとのファシリテーション

※より良い内容とするため、内容は変更となる場合があります



著者／鈴木健史（東京立正短期大学）  
解説／矢藤誠慈郎（和洋女子大学）  
定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）  
80 頁、26 × 18cm  
ISBN 978-4-577-81535-9  
108-17

# 「保育ナビ」読者からの声

「保育ナビ倶楽部」の会員の皆さんから届いた、エピソードを紹介します。今回のテーマは、「心に残るエピソード」です。

読者の皆さんのエピソードをお待ちしています!

「保育ナビ倶楽部」に登録する（詳細は右ページ）か、保育ナビ公式サイトのお知らせ欄をご確認ください。



## 泥箱池での子どもたちの様子から

園庭の木の元に作った泥箱の池。稲栽培をきっかけにレンゲや水草などの自然物が生え、様々な生き物もやってきます。昨年はモリアオガエルが産卵。泡状の卵からポトリと小さな小さなおたまじゃくしが出てくるたびに、子どもたちは「おめでとう!」と拍手して誕生を喜んでいました。そして、今年はゼリー状のアカガエルの卵を発見。毎日、泥箱池を囲んで、「ちょっと黒いところが長くなったね」「早くおたまじゃくしになあれ!」と観察。たくさんの気づきが、仕草や表情、言葉になってあふれ出ています。

日々、子どもたちの姿を振り返り、環境を考えていくなかで、特に園庭は年齢という枠を超えてかかる機会の多い場です。異年齢における育ち合いの双方向性の大切さを改めて実感しています。

（社会福祉法人城崎こども園 主幹保育教諭 中尾繭子）